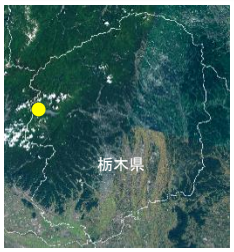
機関連携による鬼怒沼湿原（奥鬼怒生物群集保護林）でのニホンジカ対策

丸山哲也（栃木県林業センター）・吉川美紀（環境省日光国立公園管理事務所）・野口光三（日光森林管理署）

鬼怒沼湿原（奥鬼怒生物群集保護林）



標高2030mの高層湿原（徒歩2時間以上の山頂部）

ニホンジカによる影響の顕在化

ディアライン形成・地表攪乱（一部裸地化）・希少植物の減少

日光地域シカ対策共同体（以下、「共同体」という）の仕組み（平成26（2014）年4月設立）

自然植生の保全と林業等被害の軽減

＜規約からの抜粋＞

・各構成機関の目的を理解し、各構成機関による取組を自らの取組と認識し、意義を理解し、協力する

・各構成機関の取組の円滑な実施を推進するため、所管法手続、人員補助、技術提供等については格別の配慮をする

人事異動があっても継続できる仕組み

担当者レベルの協力体制

・毎年の情報交換・事業調整
・許認可の調整・手続きの迅速化
・各種対策のアイデア出し
・作業の人員協力（OJTにも活用）
・共同体の負担金はなし
・幹事（事務局）は1年毎に各機関で持ち回り

鬼怒沼での共同体の取組（年度ごとの取組経過）

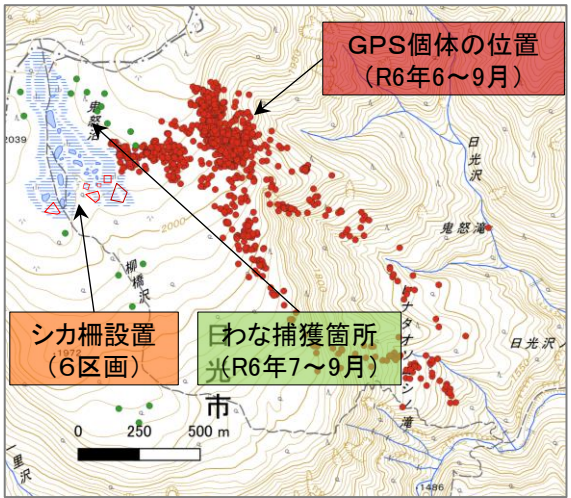
項　目	実施主体	R３（2021）	R４（2022）	R５（2023）	R６（2024）	R７（2025）
植生調査	環境省	被害状況調査	柵内モニタリング	→	→	→
現地検討	共同体	共同体としての取組スタート	危機的状況を共有	柵ごとに目的をもって年々拡張・改良（冬期は撤去）これまで、各機関から延べ204名が出役（活動定着）		
柵設置と維持管理	共同体（資材：日光署）	何度も話し合い1ケ月半後に行動	ネット柵①②	ネット柵③④	ネット柵⑤ 電気柵①	→
捕　獲	栃木県		誘引試験	わな捕獲 9頭	→ 20頭	→ 7頭
定点センサーカメラ調査	環境省			開　始	→	→
GPS行動追跡	環境省			装着できず	1頭装着	1頭装着

○これらの取組は地元旅館と意見交換を行って進めており、柵の設置や管理に当たっても協力をいただいている。

シカ侵入防止柵設置（資材運搬状況）

ネット柵 302m（5区画）
電気柵　100m（1区画）

柵設置状況（冬期の撤去と春先の再設置も毎年実施）



効　果

○柵内で国内希少種（種名等は非公表）の開花数増加
○柵内で出現種数が増加

柵内では、いくつもの種の開花を確認

○共同体の結束強化（柵の設置、冬期対策の年2回の活動が定着）

今後に向けて

○柵のメインテナンス、捕獲、モニタリングの継続
○行動追跡を活用したわな設置の検討
○立木を利用した全周電気柵の検討

立木利用試験施工

全周約2,700m